

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2008-207807

(P2008-207807A)

(43) 公開日 平成20年9月11日(2008.9.11)

(51) Int.Cl.  
B60N 2/48 (2006.01)F1  
B60N 2/48テーマコード (参考)  
3B087

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2008-109241 (P2008-109241)	(71) 出願人	000003207
(22) 出願日	平成20年4月18日 (2008.4.18)		トヨタ自動車株式会社
(62) 分割の表示	特願2003-392681 (P2003-392681) の分割		愛知県豊田市トヨタ町1番地
原出願日	平成15年11月21日 (2003.11.21)	(74) 代理人	100088155
			弁理士 長谷川 芳樹
		(74) 代理人	100113435
			弁理士 黒木 義樹
		(74) 代理人	100116920
			弁理士 鈴木 光
		(72) 発明者	相知 正人
			愛知県豊田市トヨタ町1番地 トヨタ自動車株式会社内
		(72) 発明者	竹中 研一
			愛知県豊田市トヨタ町1番地 トヨタ自動車株式会社内
		Fターム(参考)	3B087 DC06

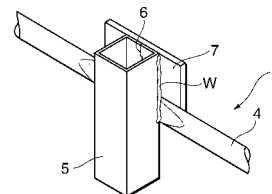
(54) 【発明の名称】 ヘッドレストの支持構造

(57) 【要約】

【課題】 ヘッドレストを支持するブラケットの接合部の開口による変形を防止して、強度を向上させたヘッドレストの支持構造を提供する。

【解決手段】 ヘッドレストの支持構造1は、板材を取り回して形成されたヘッドレストブラケット5を備えている。ヘッドレストブラケット5は、接合部6側の面がシートバックフレーム3のアッパパイプ4に溶接されている。ヘッドレストブラケット5におけるシートバックフレーム3を挟んだ反対側には、補強板7が設けられている。

【選択図】 図2



**【特許請求の範囲】****【請求項 1】**

シートバックにおけるシートバックフレームに固定され、ヘッドレストに形成されたステータが挿入されることにより、前記ヘッドレストを支持するヘッドレストブラケットを備えるヘッドレストの支持構造において、

前記ヘッドレストブラケットは、板材を取り回して、前記板材の両端部を接合して筒状に形成されており、

前記ヘッドレストブラケットにおける接合部を後方側に配置するとともに、前記接合部を補強する補強構造が形成されていることを特徴とするヘッドレストの支持構造。

**【請求項 2】**

前記補強構造が、前記ヘッドレストブラケットの後方に設けられた補強部材によって形成されている請求項 1 に記載のヘッドレストの支持構造。

**【請求項 3】**

前記補強構造が、前記ヘッドレストブラケットを取り回して形成する際に、その両端部を重ね合わせて形成されている請求項 1 に記載のヘッドレストの支持構造。

**【請求項 4】**

前記補強構造が、前記シートバックフレームを前記ヘッドレストブラケットの上端部に合わせて位置されることによって形成されている請求項 1 に記載のヘッドレストの支持構造。

**【請求項 5】**

シートバックにおけるシートバックフレームに固定され、ヘッドレストに形成されたステータが挿入されることにより、前記ヘッドレストを支持するヘッドレストブラケットを備えるヘッドレストの支持構造において、

前記ヘッドレストブラケットは、板材を取り回して、前記板材の両端部を接合して筒状に形成されており、

前記ヘッドレストブラケットにおける接合部を、前記ヘッドレストブラケットの側方または前方に配置したことを特徴とするヘッドレストの支持構造。

**【発明の詳細な説明】****【技術分野】****【0001】**

本発明は、ヘッドレストの支持構造に係り、特に、車両に設けられるシート部材に設けられ、衝突時における損傷が防止されたヘッドレストの支持構造に関する。

**【背景技術】****【0002】**

車両、たとえば自動車のシートバックには、乗員の頭部を保護する目的などのためのヘッドレストが設けられている。このようなヘッドレストの支持構造として、従来、特開 2000-102444 号公報に開示されたものがある。図 6 に示すように、このヘッドレストの支持構造 30 は、シートバック 31 内のフレーム 32 に固定されたブラケット 33 を有しており、このブラケット 33 にヘッドレスト 34 のステー 35 を嵌挿することによって、シートバック 31 でヘッドレスト 34 を支持する構造となっている。また、このようなブラケットは、一般的に板材を取り回し、その端部を溶接などによって接合されて形成されており、この接合部（継ぎ目）が形成された面がシートバックのフレームにさらに溶接などによって接合されている。

**【特許文献 1】特開 2000-102444 号公報****【発明の開示】****【発明が解決しようとする課題】****【0003】**

ところで、車両が衝突などして、ヘッドレストに大きな負荷が加わると、ヘッドレストのステーなどを介してブラケットに大きな荷重が加わることがある。このとき、上記特許文献 1 に開示されたヘッドレストの支持構造では、接合部がフレームに接合されている。

10

20

30

40

50

このため、接合部がフレームに押し付けられると、接合部が開口してしまい、ブラケットで荷重を受け止めることができる荷重が小さくなってしまうという問題があった。

【0004】

また、ヘッドレストブラケットをフレームに溶接して接合しようとする際、ブラケットの接合部をフレームに溶接することから、この接合部で溶接を行おうとすると、スパッタがブラケット内に入ってしまう。このように、スパッタがブラケット内に入るのを防ぐためには、ブラケットの後方でのフレームと溶接を行うことなく、ブラケットの接合部を避けた側方のみしか溶接することができないため、十分な溶接強度を得ることができないという問題もあった。

【0005】

そこで、本発明の課題は、ヘッドレストを支持するブラケットの接合部の開口による変形を防止して、強度を向上させるとともに、さらに、高い強度でブラケットとフレームとを溶接することができるヘッドレストの支持構造を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

上記課題を解決した本発明は、シートバックにおけるシートバックフレームに固定され、ヘッドレストに形成されたステーが挿入されることにより、ヘッドレストを支持するヘッドレストブラケットを備えるヘッドレストの支持構造において、ヘッドレストブラケットは、板材を取り回して、板材の両端部を接合して筒状に形成されており、ヘッドレストブラケットにおける接合部を後方側に配置するとともに、接合部を補強する補強構造が形成されているものである。

【0007】

本発明に係るヘッドレストの支持構造においては、ヘッドレストブラケットにおける接合部を後方側に配置するとともに、ヘッドレストブラケットにおける接合部を補強する補強構造が形成されている。このため、車両の衝突によって前方から荷重を受けた場合でも、補強構造が形成されていることから、ヘッドレストを支持するブラケットの変形、すなわち接合部の開口を防止することにより、強度を向上させることができる。

【0008】

ここで、補強構造が、ヘッドレストブラケットの後方に設けられた補強部材によって形成されている態様とすることができる。

【0009】

このように、ヘッドレストブラケットの後方に設けられた補強部材、たとえばヘッドレストブラケットとは別途設けられた板材をヘッドレストブラケットの後方に設けることにより、補強構造を形成することができる。

【0010】

また、補強構造が、ヘッドレストブラケットを取り回して形成する際に、その両端部を重ね合わせて形成されている態様とすることもできる。

【0011】

このように、ヘッドレストブラケットの両端部を重ね合わせることによって、補強構造を形成することもできる。

【0012】

さらに、補強構造が、シートバックフレームをヘッドレストブラケットの上端部に合わせて位置されることによって形成されている。

【0013】

接合部が開口する際には、その上端部分から開口することが多くなる。したがって、シートバックフレームをヘッドレストブラケットの上端部に合わせて位置されることによって補強構造を形成することもできる。

【0014】

さらに、上記課題を解決した本発明は、シートバックにおけるシートバックフレームに固定され、ヘッドレストに形成されたステーが挿入されることにより、ヘッドレストを支

10

20

30

40

50

持するヘッドレストブラケットを備えるヘッドレストの支持構造において、ヘッドレストブラケットは、板材を取り回して、板材の両端部を接合して筒状に形成されており、ヘッドレストブラケットにおける接合部を、ヘッドレストブラケットの側方または前方に配置したものである。

【 0 0 1 5 】

本発明に係るヘッドレストの支持構造では、ヘッドレストブラケットにおける接合部がヘッドレストブラケットの側方または前方に配置されている。このため、ヘッドレストブラケットの後方には接合部がないので、ヘッドレストブラケットの後方を溶接したとしても、ヘッドレストブラケット内にスパッタが入らないようにすることができる。

【 0 0 1 6 】

また、本発明にかかるヘッドレスト支持構造では、ヘッドレストブラケットにおける接合部を、ヘッドレストブラケットの側方または前方に配置している。ヘッドレストに係る荷重は、乗員の頭部から受けるものであり、その方向はヘッドレストの後方に向くものである。このため、ヘッドレストブラケットにおける接合部をヘッドレストブラケットの側方または前方に配置することにより、強度として劣る接合部を、もっとも荷重がかかる位置から外すことができる。したがって、その分ヘッドレストブラケットの変形を防止し、強度を向上させることができる。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 7 】

本発明に係るヘッドレストの支持構造によれば、ヘッドレストを支持するブラケットの接合部の開口による変形を防止して、強度を向上させるとともに、高い強度でブラケットとフレームとを溶接することができる。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 8 】

以下、図面を参照して、本発明の好適な実施形態について説明する。なお、各実施形態において、同一の機能を有する部分については同一の符号を付し、重複する説明は省略する。

【 0 0 1 9 】

図 1 は本発明の第一の実施形態に係るヘッドレストの支持構造の斜視図である。

【 0 0 2 0 】

図 1 に示すように、本実施形態に係るヘッドレストの支持構造 1 は、たとえば自動車などの車両に設けられるものであり、図示しないシートクッションおよびシートバック 2 を備えるシート部材に取り付けられている。このうちのシートクッションには、シートクッションフレームが設けられており、シートバック 2 にはシートバックフレーム 3 が設けられている。

【 0 0 2 1 】

シートバックフレーム 3 は、門型をなしており、その上端片として配設されたアップパイプ 4 には、ヘッドレストブラケット 5 が取り付けられている。ヘッドレストブラケット 5 は、図 2 に示すように、板材を取り回して形成されており、その両端部を溶接によって接合された断面角型の筒状をなしている。ヘッドレストブラケット 5 は、接合部 6 が後方を向いて配置されており、その接合部 6 がそれぞれシートバックフレーム 3 に溶接 W されて接合されている。

【 0 0 2 2 】

さらに、ヘッドレストブラケット 5 におけるシートバックフレーム 3 を挟んだ反対側（後方位置）には、それぞれ本発明の補強部材である補強板 7 が設けられている。補強板 7 は、ヘッドレストブラケット 5 の上端部にまで延在して配設されており、補強板 7 の幅はヘッドレストブラケット 5 の幅よりも幅広に設定されている。また、補強板 7 は、アーク溶接によって、シートバックフレーム 3 の裏面側およびヘッドレストブラケット 5 の高さ方向中央位置から上端部に渡って接合されている。

【 0 0 2 3 】

ヘッドレストブラケット 5 の内部には、サポートブラケット 9 が挿入され嵌め込まれている。サポートブラケット 9 の中央部には、それぞれ嵌合孔が形成されており、この嵌合孔にヘッドレスト 9 におけるステー 9 A が挿入される。このように、ヘッドレスト 9 におけるステー 9 A がサポートブラケット 9 を介してヘッドレストブラケット 5 に挿入されることにより、ヘッドレスト 9 がシートバックフレーム 3 に支持されている。

【 0 0 2 4 】

以上の構成を有する本実施形態に係るヘッドレストの支持構造の作用について説明する。

【 0 0 2 5 】

本実施形態に係るヘッドレストの支持構造においては、ヘッドレストブラケット 5 の後方にそれぞれ補強板 7 が設けられている。この補強板 7 が設けられていることにより、負荷分布が広がるので、その分ヘッドレストブラケット 5 における接合部 6 の開口による損傷を防止することができる。

【 0 0 2 6 】

また、補強板 7 は、ヘッドレストブラケット 5 より幅広に設定されている。このため、ヘッドレストブラケット 5 の後部の側方において、ヘッドレストブラケット 5 と補強板 7 とを溶接 W することができ、接合部 6 からのスパッタが入ることなくヘッドレストブラケット 5 とシートバックフレーム 3 とを補強板 7 を介して接合することができる。

【 0 0 2 7 】

しかも、補強板 7 は、ヘッドレストブラケット 5 の上端部にまで延在し、上端部まで溶接 W されて接合されている。ヘッドレストブラケット 5 の接合部 6 が開口する際には、その上端部から

開口が始まることが多いが、本実施形態では、接合部 6 の上端部まで溶接 W がなされている。このため、ヘッドレストブラケット 5 の上端部まで強度の向上が図ることができ、ヘッドレストブラケット 5 における接合部 6 が開口することによる損傷をさらに好適に防止することができる。

【 0 0 2 8 】

次に、本発明の第二の実施形態について説明する。

【 0 0 2 9 】

図 3 は、本発明の第二の実施形態に係るヘッドレストの支持構造におけるヘッドレストブラケットとシートバックフレームとの接合部を示す斜視図である。本実施形態に係るヘッドレストの支持構造は、従来のヘッドレストの支持構造と比較して、ヘッドレストブラケットの構造が主に異なっている。

【 0 0 3 0 】

本実施形態に係るヘッドレストの支持構造 1 0 におけるヘッドレストブラケット 1 1 は、図 3 に示すように、板材を取り回して形成された筒状をなしている。ヘッドレストブラケット 1 1 では、板材を取り回す際にその両端部が重ね合わされており、この重ね合わされた部分が接合されて接合部 1 2 とされている。ヘッドレストブラケット 1 1 は、この接合部 1 2 がシートバックフレームのアッパパイプ 4 に溶接 W されて接合されている。その他の点については、上記従来のヘッドレストの支持構造と同様の構成を有している。

【 0 0 3 1 】

かかる構成を有する本実施形態に係るヘッドレストの支持構造の作用について説明する。

【 0 0 3 2 】

本実施形態に係るヘッドレストの支持構造 1 0 においては、ヘッドレストブラケット 1 1 の接合部 1 2 が、二重に重ね合わされた構造をなしており、この接合部 1 2 がシートバックフレームのアッパパイプ 4 に溶接 W されて接合されている。このように、接合部 1 2 が二重になっていることから、ヘッドレスト 9 が荷重を受けたとしても開口する危険性が低くなり、強度向上に寄与することができる。また、接合部 1 2 が二重になっているので、この接合部 1 2 の裏側から溶接した場合でもヘッドレストブラケット 1 1 内にスパッタ

が入らないようにすることができる。したがって、ヘッドレストブラケット 11 の裏面側でシートバックフレーム 3 のアップパイプ 4 と溶接することによってヘッドレストブラケット 11 をシートバックフレーム 3 に確実に接合することができ、その分強度向上に寄与することができる。

【0033】

次に、本発明の第三の実施形態について説明する。

【0034】

図 4 は、本発明の第三の実施形態に係るヘッドレストの支持構造におけるヘッドレストブラケットとシートバックフレームとの接合部を示す斜視図である。本実施形態に係るヘッドレストの支持構造は従来のヘッドレストの支持構造と比較して、シートバックフレームの構造が主に異なっている。

10

【0035】

図 4 に示すように、本実施形態に係るヘッドレストの支持構造 20 は、ヘッドレストブラケット 5 が溶接によって接合されるシートバックフレーム 21 を備えている。シートバックフレーム 21 のアップパイプ 22 は、中央部が上方に盛り上がった屈曲部 22A を備えている。屈曲部 22A は、アップパイプ 22 の側方よりも高い位置に配置されており、屈曲部 22A の上端部にヘッドレストブラケット 5 の上端部が溶接によって接合されている。

【0036】

かかる構成を有する本実施形態に係るヘッドレストの支持構造の作用について説明する。

20

【0037】

本実施形態に係るヘッドレストの支持構造 20 においては、シートバックフレーム 21 のアップパイプ 22 の中央に位置する屈曲部 22A が側方よりも高い位置に配置されており、その屈曲部 22A にヘッドレストブラケット 5 の上端部が接合されている。こうして、接合部 6 の上端を補強することにより、接合部 6 の上端部から始まる接合部 6 の開口を好適に防止することができる。

【0038】

シートバックフレームのアップパイプを単に上方に移動させることで、ヘッドレストブラケット 5 の上端部をアップパイプに接合する態様とするとも考えられる。これに対し、本実施形態に係るヘッドレストの支持構造 20 では、アップパイプ 22 の中央部を屈曲させて上方に位置させているので、シートバックの肩部の高さを上げず、シートの高さを変えないようしながら、ヘッドレストブラケット 5 の上端部をシートバックフレーム 21 のアップパイプ 22 に接合することができる。

30

【0039】

続いて、本発明の第四の実施形態について説明する。

【0040】

図 5 は、本発明の第四の実施形態に係るヘッドレストの支持構造におけるヘッドレストブラケットとシートバックフレームとの接合部を示す斜視図である。本実施形態に係るヘッドレストの支持構造は、上記第一の実施形態と比較して、ヘッドレストブラケットの取付構造が主に異なっている。

40

【0041】

図 5 に示すように、本実施形態に係るヘッドレストの支持構造 30 では、シートバックフレーム 3 のアップパイプ 4 にヘッドレストブラケット 5 の後部が溶接 W されて接合されている。ここで、ヘッドレストブラケット 5 は、接合部 6 を備えており、接合部 6 は、ヘッドレストブラケット 5 の側方を向いて配置されておりシートバックフレーム 3 のアップパイプ 4 と接合された面の隣に配置されている。その他の点については、上記従来のヘッドレストの支持構造と同様の構成を有している。

【0042】

かかる構成を有する本実施形態に係るヘッドレストの支持構造の作用について説明する

50

。

## 【 0 0 4 3 】

本実施形態に係るヘッドレストの支持構造 3 0 においては、ヘッドレストブラケット 5 における接合部 6 が側方に向けて配置されており、ヘッドレストブラケット 5 は、接合部 6 のない位置でシートバックフレーム 3 と接合されている。このため、乗員の頭部からヘッドレストに荷重がかかった場合に、ヘッドレストブラケット 5 における接合部 6 は、シートバックフレーム 3 とは接合されていないので、接合部 6 にかかる荷重が大きくなりすぎないようにする。したがって、接合部 6 から始まる開口によるヘッドレストブラケット 5 の損傷を防止することができる。

## 【 0 0 4 4 】

また、本実施形態に係るヘッドレストの支持構造 3 0 では、ヘッドレストブラケット 5 のうちの接合部 6 が形成されていない面において、シートバックフレーム 3 と接合されている。このため、接合部 6 からのスパッタが入ることなくヘッドレストブラケット 5 とシートバックフレーム 3 とを補強板 7 を介して溶接 W によって接合することができる。

## 【 0 0 4 5 】

なお、本実施形態では、ヘッドレストブラケット 5 の接合部 6 を側方に配置しているが、前方に配置しても同様の効果を得ることができる。

## 【 0 0 4 6 】

以上、本発明の好適な実施形態について説明したが、本発明は上記実施形態に限定されるものではない。たとえば、上記各実施形態では、ヘッドレストブラケットを断面角型としているが、断面円形や楕円形のものとすることもできる。また、上記各実施形態を適宜組み合わせた態様とすることもできる。

## 【 図面の簡単な説明 】

## 【 0 0 4 7 】

【 図 1 】 第一の実施形態に係るヘッドレストの支持構造の斜視図である

【 図 2 】 第一の実施形態に係るヘッドレストの支持構造におけるヘッドレストブラケットとシートバックフレームとの接合部を示す斜視図である。

【 図 3 】 本発明の第二の実施形態に係るヘッドレストの支持構造におけるヘッドレストブラケットとシートバックフレームとの接合部を示す斜視図である。

【 図 4 】 本発明の第三の実施形態に係るヘッドレストの支持構造におけるヘッドレストブラケットとシートバックフレームとの接合部を示す斜視図である。

【 図 5 】 本発明の第四の実施形態に係るヘッドレストの支持構造におけるヘッドレストブラケットとシートバックフレームとの接合部を示す斜視図である。

【 図 6 】 従来のヘッドレストの支持構造の斜視図である。

## 【 符号の説明 】

## 【 0 0 4 8 】

1 , 1 0 , 2 0 , 3 0 ... ヘッドレストの支持構造、 2 ... シートバック、 3 , 1 2 , 2 1 ... シート、バックフレーム、 4 , 2 2 ... アップパイプ、 5 , 1 1 ... ヘッドレストブラケット、 6 , 1 2 ... 接合部、 7 ... 補強板、 8 ... サポートブラケット、 9 ... ヘッドレスト、 9 A ... ステー、 2 2 A ... 屈曲部。

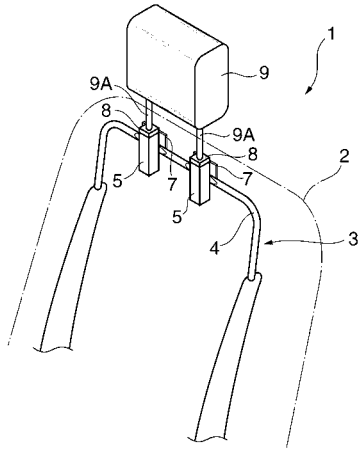
10

20

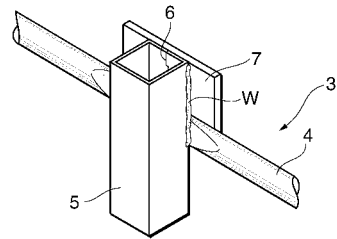
30

40

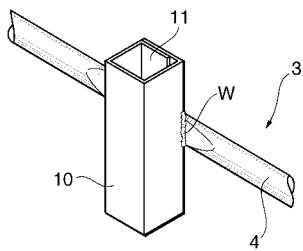
【図 1】



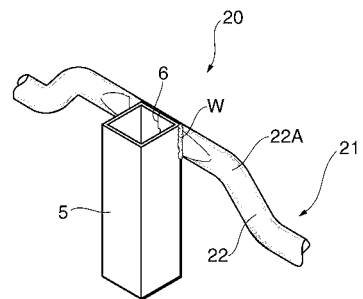
【図 2】



【図 3】

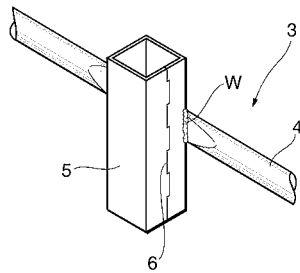


【図 4】

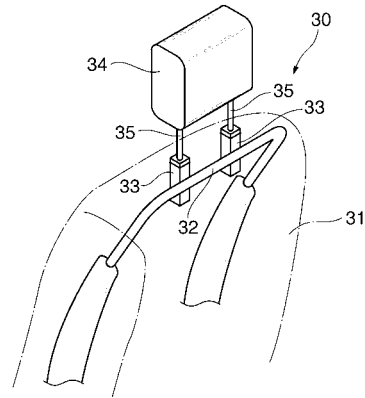




【図 5】



【図 6】



## 【手続補正書】

【提出日】平成20年5月13日(2008.5.13)

## 【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

シートバックにおけるシートバックフレームに固定され、ヘッドレストに形成されたステーが挿入されることにより、前記ヘッドレストを支持するヘッドレストブラケットを備えるヘッドレストの支持構造において、

前記ヘッドレストブラケットは、板材を取り回して、前記板材の両端部を接合して筒状に形成されており、

前記ヘッドレストブラケットにおける接合部を、前記ヘッドレストブラケットの側方または前方に配置したことを特徴とするヘッドレストの支持構造。

【請求項 2】

シートバックにおけるシートバックフレームに固定され、ヘッドレストに形成されたステーが挿入されることにより、前記ヘッドレストを支持するヘッドレストブラケットを備えるヘッドレストの支持構造において、

前記ヘッドレストブラケットは、板材を取り回して、前記板材の両端部を接合して筒状に形成されており、

前記補強構造が、前記ヘッドレストブラケットを取り回して形成する際に、その両端部を重ね合わせて形成されていることを特徴とするヘッドレストの支持構造。

【請求項 3】

シートバックにおけるシートバックフレームに固定され、ヘッドレストに形成されたステーが挿入されることにより、前記ヘッドレストを支持するヘッドレストブラケットを備えるヘッドレストの支持構造において、

前記ヘッドレストブラケットは、板材を取り回して、前記板材の両端部を接合して筒状に形成されており、

前記ヘッドレストブラケットにおける接合部を後方側に配置するとともに、前記シートバックフレームおよび前記ヘッドレストブラケットに渡って接合され、前記接合部を補強する補強部材が設けられていることを特徴とするヘッドレストの支持構造。

【請求項 4】

シートバックにおけるシートバックフレームに固定され、ヘッドレストに形成されたステーが挿入されることにより、前記ヘッドレストを支持するヘッドレストブラケットを備えるヘッドレストの支持構造において、

前記ヘッドレストブラケットは、板材を取り回して、前記板材の両端部を接合して筒状に形成されており、

前記ヘッドレストブラケットにおける接合部を後方側に配置するとともに、前記接合部を補強する補強部材が設けられており、

前記補強部材は前記ヘッドレストブラケットよりも幅広であることを特徴とするヘッドレストの支持構造。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 2

【補正方法】 削除

【補正の内容】

【手続補正 9】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 3

【補正方法】 削除

【補正の内容】

【手続補正 1 0】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 6 】

本発明に係るヘッドレスト支持構造では、ヘッドレストブラケットにおける接合部を、ヘッドレストブラケットの側方または前方に配置している。ヘッドレストに係る荷重は、乗員の頭部から受けるものであり、その方向はヘッドレストの後方に向くものである。このため、ヘッドレストブラケットにおける接合部をヘッドレストブラケットの側方または前方に配置することにより、強度として劣る接合部を、もっとも荷重がかかる位置から外すことができる。したがって、その分ヘッドレストブラケットの変形を防止し、強度を向上させることができる。

他方、上記課題を解決した本発明は、シートバックにおけるシートバックフレームに固定され、ヘッドレストに形成されたステーが挿入されることにより、ヘッドレストを支持するヘッドレストブラケットを備えるヘッドレストの支持構造において、記ヘッドレストブラケットは、板材を取り回して、板材の両端部を接合して筒状に形成されており、補強構造が、ヘッドレストブラケットを取り回して形成する際に、その両端部を重ね合わせて形成されているものである。

また、上記課題を解決した本発明は、シートバックにおけるシートバックフレームに固定され、ヘッドレストに形成されたステーが挿入されることにより、ヘッドレストを支持するヘッドレストブラケットを備えるヘッドレストの支持構造において、ヘッドレストブラケットは、板材を取り回して、板材の両端部を接合して筒状に形成されており、ヘッドレストブラケットにおける接合部を後方側に配置するとともに、シートバックフレームおよびヘッドレストブラケットに渡って接合され、接合部を補強する補強部材が設けられているものである。

さらに、上記課題を解決した本発明は、シートバックにおけるシートバックフレームに固定され、ヘッドレストに形成されたステーが挿入されることにより、ヘッドレストを支持するヘッドレストブラケットを備えるヘッドレストの支持構造において、ヘッドレストブラケットは、板材を取り回して、板材の両端部を接合して筒状に形成されており、ヘッドレストブラケットにおける接合部を後方側に配置するとともに、接合部を補強する補強部材が設けられており、補強部材はヘッドレストブラケットよりも幅広であるものである。

。

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 2

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 2 2 】

さらに、ヘッドレストブラケット 5 の後方位置には、それぞれ本発明の補強部材である補強板 7 が設けられている。また、ヘッドレストブラケット 5 と補強板 7 とは、アップパイプ 4 を挟んで配置されている。補強板 7 は、ヘッドレストブラケット 5 の上端部にまで

延在して配設されており、補強板 7 の幅はヘッドレストブラケット 5 の幅よりも幅広に設定されている。また、ヘッドレストブラケット 5 は、アーク溶接によって、その高さ方向中央位置から上端部に渡って、アップパイプ 4 および補強板 7 に接合されている。